

沼田賴輔君著「日本紋章學」ニ對スル授賞審査要旨

沼田賴輔君著「日本紋章學」ハ從來我が邦ニ行ハレタル紋章ニ關セル一切ノ事項ヲ研究シ新タニ組織ヲ立テ、日本紋章學ト名ツケ、之ニ據リテ主トシテ國民ノ姓氏及ビ姓氏ト紋章トノ關係ヲ説明シテ國史ノ研究ニ資スルコトヲ目的トシタルモノナリ。

本書ハ先ヅ之ヲ總論各論ノ二卷ニ分チ、第一卷總論ハ更ニ分チテ十四章トナシ、紋章學ノ定義ヲ説キ起原沿革ヲ叙シ紋章一般ニ通ゼル事項即チ家紋選定ノ意義、紋章構成ノ方法、其ノ形態ノ變遷、紋章ノ分類等ヲ記シ紋章ト姓氏トノ關係ヲ説キ其ノ地理的分布ヲ明カニシ、賜與奪取等家紋ノ移轉ヲ記シ更ニ家紋ニ關スル制度ヨリ其ノ用途ヲ説キテ、衣服、甲冑、刀劍、馬具、建造物、石碑ノ類ニ於ケル居文ヲ明カニシ遂ニ家紋ノ文藝上ノ應用ニ及ベリ。次ニ第二卷各論ハ之ヲ天文、地文、動物、植物、器財、營造物、文様、文學、圖符等ノ八篇百二十八章ニ分チテ、標式的紋章三百餘個、其ノ變種ヲ合セテ二千個以上ノ紋章ニ就キ、具サニ其ノ名稱、起源、沿革ヲ述ベ其ノ姓氏トノ關係其ノ地理的分布ヲ説明セリ。

抑々紋章研究ノ資料ハ甚ダ乏少ナルニモ拘ハラズ、著者ハ多年之ガ搜索ニ没頭シテ或ハ文献ニ徵シ、或ハ遺物ニ證シ之ヲ基礎トシテ科學的研究ヲ進メタリ。而シテ著者ハ博物學考古學等ノ素養アルヲ以テ、紋章ノ名ノ疑義ニ涉レルモノハ、詳細ニ其ノ紋章ノ由ツテ來ル所ノ實物ヲ調査シテ比較研究ヲ試

ミ、随ツテ多數ノ繪畫ヲ挿ミテ説明ヲ正確ニセルハ著者ノ得意トスル所ナルヲ見ル。

紋章ニ關シテハ從來本邦人ハ勿論歐米人モ之ニ注意シ多少ノ記述ヲ試ミタルモノアレドモ、著者ニ至リ始メテ日本紋章學トシテ大體ニ於テ之ヲ完成シタルト同ジク、其ノ説ク所モマタ著者ノ創見ニ係ルモノ多シ。今其ノ主要ナルモノ二三ヲ左ニ掲ゲン。

先ヅ菊花御紋章ニ就キテハ、先輩或ハ之ヲ後花園天皇ノ御代ニ始マルトナセドモ、著者ハ之ヲ後鳥羽上皇ノ用ヒサセ給ヘルニ起因ストノ説ヲ採リ、爾來歷代ノ天皇、上皇之ヲ襲用シ給ヒシヨリ、遂ニ皇室ノ御紋章トナリシモノナリト證明セリ。次ニ家紋ノ起源ニ就キテハ、山鹿素行、新井白石、伊勢貞丈等ハ源平時代若クハ鎌倉時代ノ初期ニ在ルコトヲ推定セシガ、著者ハ具體的材料ニ依リテ右諸先輩ノ説ヲ明確ニセリ。次ニ紋章ノ名ニ就キテモ、著者ノ研究ニ依リテ闡明セラレタルモノ少カラズ。即チ鳩ニ寓生^{ホウ}ノ紋トイフモノ源平盛衰記ニ見エタルガ、其ノ寓生ハ從來或ハ之ヲ貝ノ一種トナシ、或ハ之ヲ鳩ノ巢トナス等其ノ説一定セザリシガ、著者ハ植物學上ノ研究ニ基キテ、之ヲ和名抄ニ見エタル寓生即チ檜寄生ニ象レルモノト論定セリ。又引兩ノ紋ニ就キテハ、其ノ名稱或ハ二線ヲ劃セルニ因ルトナシ、或ハ日月ノ精靈ニ象レルモノトナシ、或ハ引キタル龍ノ義ナリトモイヒ、是亦一定セザリシガ、著者ハ禪林諸祖傳中ノ梅友傳、見聞諸家紋、周易本義等ニ據リテ引キ龍ノ充テ字ナルコトヲ論證セリ。次ニ鈴木氏ノ名稱ハ、積稻ヲ指セル熊野地方ノ方言ニ起因セルモノトシ、随ツテ鈴木氏ノ元來稔積姓ニシテ、稻穗ヲ家紋トセルモノナルコトヲ證明セリ。其ノ他徳川氏葵ノ紋ハ松平氏ノ紋ヲ繼

承セルモノニシテ、其ノ起源ハ賀茂明神ノ崇敬ニ在リトシ、前田、竹腰、堀、深尾ノ諸氏ガ菅原氏ヲ稱セルハ天満宮ヲ信仰シテ梅花ノ紋ヲ用ヒシニ起因セルコトヲ説明セシガ如キ、其ノ著ルシキモノトスベシ。圖符ノ紋章ノ加キ陰陽道ノ思想ヨリ出デタルモノヲモ詳述セルハ亦用意ノ周到ナルヲ見ルニ足ル。

要スルニ紋章ハ、上ハ日月星辰ヨリ下ハ草木、鳥獸、昆蟲、魚介、衣服、器財、營造物等ニ及ビ苟クモ人間生活ニ關係アルモノハ、多ク其ノ構成ノ材料トシテ用ヒラレ、隨ツテ其ノ研究ノ範圍甚ダ廣汎ニ亘レリ。シカモ著者ハ一々之ヲ調査シテ、其ノ起源ヲ極メ其ノ沿革ヲ説キ、添フルニ豊富ナル挿圖ヲ以テシテ、我ガ國民性ノ一面ヲ明カニシ、國史ノ研究ニ寄與スル所少カラザルハ洵ニ能ク研究ノ目的ヲ達シタルモノトイフベシ。

時ニ或ハ獨斷ニ近シト危マル、モノアリ。或ハ尙研究ノ餘地ヲ存スト思ハル、モノアリト雖モ、之ヲ以テ著者ノ絶大ナル努力ト顯著ナル成功トヲ疑フ能ハザルハ勿論ナリトス。